

<12>最終回・あらためてコンクリートを考える

当連載では11回にわたり、コンクリートの性質やひび割れのないつくり方を、コンクリートの専門家・岩瀬文夫氏がアドバイスしてきた。最終回では、あらためて丈夫で長持ちするコンクリートをつくることの意義について、執筆してもらった。

製造に伴う環境破壊

わかる！ コンクリート

コンクリートの主原料はセメント、水、砂、砂利です。セメントは、石灰石に粘土などを加えて焼いた後、こまかく粉砕することで製造されています。沖繩においては、セメント製造業は、県内の豊富な石灰岩の地層を利用した地

場産業になっています。

ところで、セメント製造には幾つか問題点があります。関東では、秩父にある武甲山が石灰石の産地として有名ですが、多量の採掘により、その姿が変わるほどに、山を傷つけています。またセメントの製造工程における石灰の燃焼、石灰石の分解によって、膨大な量のCO₂が排出されています。

砂や砂利についても、多量に採取することで、採取地の自然環境を損なっています。コンクリートは自然環境を犠牲にすることで成り立っているともいえるのです。

現在は「ごみの焼却灰からの

セメントの製造」解体後のコンクリート中の骨材の再利用など、環境への負荷を小さくするさまざまな試みがなされています。しかし、自然を壊してつくるコンクリートです。丈夫で長持ちするものをつくる、もっと大切にする必要があるのではないのでしょうか？

品質の違いに気付く

私が、同じコンクリートにも品質に大きな違いがあることに気が付いたのは、コンクリート業界に足を踏み入れたばかりの、40年以上も前のことです。

長持ちする工法 普及を

「建てては壊す」からの転換が不可欠



住宅の基礎を取り壊しているところ。水分の多い生コンを雑に施工し、養生も行なわなかったために、ひび割れが多量に発生した

明治30年代につくられた小樽港防波堤のコンクリートブロック。入念な施工でつくられたため、厳しい環境下にもありながら、築後100年以上たった今も現役

29日にコンクリート講演会

岩瀬文夫氏が代表を務める株式会社コンクリートサービスは、一般向けの講演会を今月29日(木)に開く。コンクリートにまつわる面白い話を、同氏が分かりやすく紹介する。入場無料。なお午後からは、技術者向けに「ひび割れのないコンクリートのつくり方(型枠の環境)」のテーマで講演会を行う。



日時：4月29日(木)、午前10時～11時30分
場所：沖縄県青年会館大ホール(那覇市久米) 岩瀬文夫氏
員：150人(定員に達し次第締め切る)

参加申し込みは、同社ホームページ(<http://www.sc-con.com>)から参加申込書をプリントアウトし、記入後、ファクス(042・559・2625)で送信するか、メール(mottowakaru@sc-con.com)で、参加者氏名・住所・電話番号・ファクス番号・メールアドレスを送信。
問い合わせは、同社(電話=042・558・6637)まで。

そのころ、ほぼ同時期に2つの物件でコンクリートのコア抜きに立ち会う機会がありました。一方はひび割れだらけのコンクリート、もう一方は健全なコンクリートでした。ひび割れだらけのコンクリートは、簡単にコア抜きできたのに対し、健全なコンクリートにはコア抜き機の刃がなかなか入っていかず、苦勞していたことを今も覚えています。経験を重ねる中で、この違いは「コンクリートの密度」の違いによるのだと理解するようになりました。密度の高い、すき間の少ないコンクリートほど、ひび割れにくく、またコア抜きが難しいのです。密度の高いコンクリートをつくるこそが大切なことです。私はいまでも、さまざまな機会をとらえて、丈夫で長持ちするコンクリートのつくり方をお伝えしてきましたが、なかなか普及していません。これには、一般の方々のコンクリートに対する知識が十分ではないことが大きく影響しているように思います。いくら高品質のコンクリートをつくっても、適正に評価されなければ、費やした手間は、無駄なもの」と考えられてしまうからです。また「建てては壊す」の考え方が、いまだ社会にまん延していることも問題です。今回、一般の方々向けの記事を、初めて連載させていただきました。これを機に今までの方々に興味を持っていただけましたら、誠に幸いです。コンクリートを大切に!! (岩瀬文夫)株式会社コンクリートサービス代表取締役

この連載は今回で終了